

児玉九十著作目録の再検討（2）

廣 嶋 龍太郎^{*}

はじめに

児玉九十（1888-1989）は大正期から昭和期の教育者であり、戦前においては成蹊学園の主事を経て明星実務学校（のちの明星中学校）の校長を務め、戦後においては明星大学を創設し初代学長を務めた人物である。前稿では、『この道五十年』を先行研究として、明星大学成立まで中心とした時期（1964 年まで）の児玉九十著作目録を扱った。本稿では『真実の教育を求めて』を先行研究として、明星大学成立以降の時期（1965 年以降）を対象に扱いたい。

1. 先行研究

児玉の著作を網羅的にまとめた全集や著作目録は存在しないが、『真実の教育を求めて』は論集としての性格を持っている。同書は 1977（昭和 52）年に明星大学通信教育部の創設十周年を記念して出版された。その「まえがき」には、明星大学通信教育部報『めいせい』にその時々々の教育問題を中心に執筆した原稿を収録し、「この道五十年その後」という位置づけの出版物であることが述べられている¹。『真実の教育を求めて』の構成は講演編と随筆編に分かれているが、それぞれの収録作の末尾に書誌事項などの表示はなく、出版年と見られる年号のみが示されている。また、『めいせい』におけるすべての記事を網羅したものではない。

『めいせい』は明星大学通信教育部発行の部報であり、1967（昭和 42）年 5 月の創刊号から 2014 年現在に至るまで発行されている。創刊号から巻頭の記事は児玉九十が担当しており、その性格は「明星大学の校風」を伝えるものであるとの位置づけも垣間見える²。創刊号の編集後記となる「武蔵野だより」にはその性格について「皆がひとつになりあえる一手段として、毎月、部報『めいせい』を発行する事になりました。特に、毎日顔を合わせて勉強することの出来ない皆さんが、それぞれの場所で、つながりあっているという実感を持つために、大事な役割りを持っていくものと思います。」³と述べる箇所がある。ここからは、明星大学通信教育部の在学生にとって、事務連絡だけでなく学び合いの助けとなるような情報誌を目指したことが窺える。児玉の寄稿は 1967（昭和 42）年の創刊号にはじまり、終盤は間隔があくものの、1979（昭和 54）年 7 月号まで続けられた。

本稿では、児玉の著作の中で『この道五十年』出版後となる 1965（昭和 40）年以降の著作を対象とし、『真実の教育を求めて』に収録されたものを示した上で、未収録の著作を示したい。なお、書誌事項が不十分なものについては、原典及び NDL-OPAC（国立国会図書館蔵書目録）と国立国会図書館デジタルコレクションを参考にした書誌事項を注に付した。

目録の順序については出版年順とした。なお、『真実の教育を求めて』の年号表記は和暦で示されているため「3. 『真実の教育を求めて』収録著作」は和暦で掲載するが、「5. 『真実の教育を求めて』未収録著作」では一覧を作成する都合から西暦に改めた。

^{*} 教育学部 准教授 日本教育史

2. 児玉九十の著作（図書）

以下の5点は、1965（昭和40）年以降の時期において、NDL-OPACで確認できた児玉の著作（図書）である（2014年11月現在）。「児玉九十」で検索し、6件の図書が確認されたが、明らかに重複する1件は削除した。また、前号で扱った『この道五十年』（1965年）は含めていない。

凡例：『書名』 出版者、発表年（共著者、シリーズ名、版、その他備考など）

1. 『喜寿記念両親教育』 明星学苑編集委員会、1965年（明星学苑編集委員会編）
2. 『両親教育』 明星大学出版部、1976年（めいせい教養選書シリーズ1）
3. 『真実の教育を求めて』 明星大学、1977年
4. 『児玉九十自伝』 明星大学出版部、1990年
5. 『明星ものがたり』 改訂版、明星大学出版部、1998年（児玉三夫との共著）

3. 『真実の教育を求めて』 収録著作（論文、記事など）

以下の84点は、『真実の教育を求めて』に収録された著作を、発表年順に整理したものである。なお、明星教育センター所蔵の『めいせい』において実物が確認できるものに関しては、正確な書誌事項を注で示した⁴。

凡例：「書名」（『真実の教育を求めて』に示された書誌事項）

1. 「世界的教育爆発時代を迎えて」（『めいせい』昭和42年5月）
2. 「教育の意義」（『めいせい』昭和42年6月）
3. 「人間性の開発とヒューマンタッチ」（『めいせい』昭和42年7月）
4. 「日本教育の問題」（『めいせい』昭和42年9月）
5. 「敬老の日の最高のプレゼント」（『めいせい』昭和42年9月）
6. 「明治百年祭の年を迎えて」（『めいせい』昭和43年1月）
7. 「家庭の教育」（『めいせい』昭和43年5月）
8. 「『現代若者の父親像』を読む」（『めいせい』昭和43年6月）
9. 「学園紛争に悩む沖縄受講生」（『めいせい』昭和43年8月）
10. 「健康法について」（『めいせい』昭和43年11月）
11. 「第一回外遊英国滞在中の思い出」（『めいせい』昭和44年1月）
12. 「頂門の一針」（『めいせい』昭和44年2月）
13. 「教育関係者総反省の秋」（『めいせい』昭和44年5月）
14. 「学生の精神的自滅」（『めいせい』昭和44年6月）
15. 「現下日本教育の諸問題」（『めいせい』昭和44年10月）
16. 「傾聴すべき一用務員の意見」（『めいせい』昭和44年11月）⁵
17. 「万博で恥さらしせぬようにしたい」（『めいせい』昭和44年12月）
18. 「人間性涵養の教育」（『めいせい』昭和44年12月）

19. 「二宮尊徳先生石像問題について」(『めいせい』昭和45年2月)
20. 「高校生指導の好模範」(『めいせい』昭和45年3月)
21. 「肝銘深き講義及び訓話」(『めいせい』昭和45年4月)
22. 「感心な学生」(『めいせい』昭和45年5月)
23. 「長寿学について」(『めいせい』昭和45年6月)⁶
24. 「他人の苦しみ」(『めいせい』昭和45年7月)
25. 「高校生の落首より見た現代高校生活の一断面」(『めいせい』昭和45年8月)
26. 「公害問題は国民全体の良識で真剣、真面目に処理すべきだ」(『めいせい』昭和45年9月)
27. 「国際教育年と日本の教育について」(『めいせい』昭和45年10月)
28. 「凡ては道德の問題だ」(『めいせい』昭和45年12月)
29. 「離婚と遺産分配事件の激増について」(『めいせい』昭和46年2月)
30. 「教師の在り方について」(『めいせい』昭和46年3月)⁷
31. 「『少年日本史』の国会問答について」(『めいせい』昭和46年4月)
32. 「健全な病人—健康保険運営問題—」(『めいせい』昭和46年6月)
33. 「連休子ども受難」(『めいせい』昭和46年6月)
34. 「年長者は本気になって社会悪から子どもを守るべきだ」(『めいせい』昭和46年8月)
35. 「全世界を震撼させた米大統領の非常事態宣言について」(『めいせい』昭和46年9月)
36. 「わが健康道」(『めいせい』昭和46年10月)
37. 「両陛下の無事ご帰国を祝し国民は今後いかに処すべきかについて」(『めいせい』昭和46年11月)
38. 「酒類公害をどうしたらいいか」(『めいせい』昭和46年12月)
39. 「経団連諸氏の訪欧報告を聴き国家の前途を憂う」(『めいせい』昭和46年12月)
40. 「人間性喪失時代」(『めいせい』昭和47年2月)
41. 「勤勉が唯一の資源」(『めいせい』昭和47年3月)
42. 「赤軍派はどうして生まれたか」(『めいせい』昭和47年4月)⁸
43. 「大学生の美談」(『めいせい』昭和47年5月)
44. 「道義無視の悪風打破が根本ではないでしょうか」(『めいせい』昭和47年6月)
45. 「信は萬事の本」(『めいせい』昭和47年7月)
46. 「治安状況は現状でいいのだろうか」(『めいせい』昭和47年8月)
47. 「画竜点睛を欠いた日本列島改造論」(『めいせい』昭和47年9月)⁹
48. 「ECと日本」(『めいせい』昭和47年10月)
49. 「脅迫犯は秀才高校生」(『めいせい』昭和47年11月)
50. 「連合軍の占領政策批判」(『めいせい』昭和47年12月)
51. 「相つぐわが子殺し」(『めいせい』昭和47年12月)
52. 「資源枯渇と食糧危機」(『めいせい』昭和48年2月)
53. 「親心喪失事件続出」(『めいせい』昭和48年3月)
54. 「思いがけない伏兵」(『めいせい』昭和48年4月)
55. 「妙な名前の先生」(『めいせい』昭和48年6月)
56. 「下降線をたどる日本人の評判」(『めいせい』昭和48年7月)
57. 「傾聴すべき日本国土改造論」(『めいせい』昭和48年9月)¹⁰

58. 「草創期の明星教育」(『めいせい』昭和48年10月)
59. 「他山の石」(『めいせい』昭和48年11月)
60. 「孝は百行の本」(『めいせい』昭和48年12月)
61. 「自主外交とは何か」(『めいせい』昭和48年12月)¹¹
62. 「外国人の日本現状観批判」(『めいせい』昭和49年2月)
70. 「日韓大陸ダナ協定について」(『めいせい』昭和49年3月)
63. 「自己愚の恥さらしはやめましょう」(『めいせい』昭和49年4月)
64. 「小学六年生が女の子を刺す」(『めいせい』昭和49年5月)
65. 「子捨て子殺し」(『めいせい』昭和49年6月)
66. 「一億日本国民が襟を正して謹聴すべき韓国大学校教授の忠告」(『めいせい』昭和49年7月)
67. 「賀屋興宣氏の『中ソ戦争について』を読む」(『めいせい』昭和49年8月)
68. 「日本人の口ベタ、社交ベタ」(『めいせい』昭和49年9月)
69. 「戦後わが国の私学の歩み」(『めいせい』昭和49年11月)
71. 「恐るべき酒害」(『めいせい』昭和50年12月)
72. 「感謝の精神」(『めいせい』昭和51年1月)
73. 「独立自成」(『めいせい』昭和51年2月)
74. 「油田開発に燃える韓国」(『めいせい』昭和51年3月)
75. 「天下大乱」(『めいせい』昭和51年4月)
76. 「日本人には大きな声で文化国家などという資格があるでしょうか」(『めいせい』昭和51年5月)
77. 「法治国家日本にこんなことがあってよいのでしょうか」(『めいせい』昭和51年6月)
78. 「傾聴すべき煙害論」(『めいせい』昭和51年7月)
79. 「国連人間居住会議に出た国民居住問題の好指針」(『めいせい』昭和51年8月)
80. 「歯の健康法」(『めいせい』昭和51年9月)
81. 「両親教育」(『めいせい』昭和51年10月)¹²
82. 「サリドマイド児に対する同情心」(『めいせい』昭和52年1月)
83. 「雑居ビルの恐ろしさ」(『めいせい』昭和52年2月)
84. 「入学試験抽選論」(『めいせい』昭和52年3月)

4. 『真実の教育を求めて』未収録著作(論文等)①NDL-OPAC、国立国会図書館デジタルコレクション(2014年12月現在)

以下の15点は、『真実の教育を求めて』に収録された以外の著作(論文等)の中から、上記の検索で確認したものである。

凡例:「書名」『掲載誌』掲載巻(号)、発表年(備考:掲載誌の編者など)

1. 「一次、二次大戦後の欧米視察」『はろーぼーい:先生の見た世界は』1965年(馬田英雄著)
2. 「研究紀要第一号発刊に際して」『明星大学理工学部研究紀要』(1)、1965年(明星大学編)
3. 「生活の講座 現下教育の諸問題」『在家仏教』(148)、1966年(在家仏教協会編)

4. 「現代学校教育を語る」『松前重義著作集』第9(対談集)、1967年(松前重義著)
5. 「研究紀要 第三号発刊に際して」『明星大学理工学部研究紀要』(3)、1967年(明星大学編)
6. 「郁文館学園八十周年を祝す」『郁文館学園八十年史』1968年(郁文館学園八十年史編集委員会編)
7. 「開校二十周年記念と明治一〇〇年」『駒沢大学高等学校二十周年記念誌』1968年(二十周年記念誌編集委員会編)
8. 「研究紀要第6号発刊に際して」『明星大学理工学部研究紀要』(6)、1971年(明星大学編)
9. 「研究紀要第7号発刊に際して」『明星大学理工学部研究紀要』(7)、1972年(明星大学編)
10. 「研究紀要第8号発刊に際して」『明星大学理工学部研究紀要』(8)、1973年(明星大学編)
11. 「研究紀要第9号発刊に際して」『明星大学理工学部研究紀要』(9)、1973年(明星大学編)
12. 「研究紀要第10号発刊に際して」『明星大学理工学部研究紀要』(10)、1974年(明星大学編)
13. 「研究紀要第11号発刊に際して」『明星大学理工学部研究紀要』(11)、1975年(明星大学編)
14. 「ずいひつー教育のゆくえ」『月刊自由民主』(8)(247)、1976年(自由民主党編)
15. 「教育は楽しむもの一人間づくりに生涯かけて(この人と語る)」『月刊自由民主』(11)(250)、1976年(自由民主党編)

5. 『真実の教育を求めて』未収録著作(論文等)②その他、直接確認したもの

以下の93点は、上記の2から4に該当しない1965(昭和40)年以降の時期に発行された児玉の著作について、2014年12月までに筆者が原典を確認したものである。

凡例:「書名」『掲載誌』掲載巻(号)、発表年

1. 「創立45周年に際して」『学天の明星—創立45周年記念』1968年
2. 「明星大学時報発刊に際して」『めいせい時報』(創刊号)、1969年
3. 「学長告辞(全文)」『めいせい時報』(4)、1970年
4. 「二十一世紀における日本人の責任」『めいせい』4(8)、1970年
5. 「学長告辞(全文)」『めいせい時報』(12)、1971年
6. 「入学式学長告辞」『めいせい時報』(13)、1971年
7. 「文芸春秋臨時増刊号を見て」『めいせい』5(2)、1971年
8. 「わが健康道」『めいせい時報』(15)、1971年
9. 「両陛下の無事ご帰国を祝し国民は今後如何に処すべきかに就いて」『めいせい時報』(16)、1971年
10. 「酒類公害をどうしたらいいか」『めいせい時報』(17)、1971年
11. 「人間喪失時代」『めいせい時報』(18)、1972年
12. 「明星大学父兄会発足を祝す」『明星大学父兄会 会報』(創刊号)、1972年
13. 「卒業式学長告辞」『めいせい時報』(19)、1972年
14. 「学長告辞」『めいせい』6(1)、1972年¹³
15. 「入学式学長告辞」『めいせい時報』(20)、1972年
16. 「道義無視の悪風打破が根本ではないでしょうか」『めいせい時報』(21)、1972年
17. 「治安状況は現状でいいのだろうか」『めいせい時報』(22)、1972年
18. 「画竜点睛を欠いた日本列島改造論」『めいせい時報』(23)、1972年

19. 「EC と日本」『めいせい時報』(24)、1972 年
20. 「脅迫犯は秀才高校生」『めいせい時報』(25)、1972 年
21. 「妙な名前の先生」『めいせい』7 (3)、1973 年
22. 「偉人を育てた母一本居宣長の母 (3)」『めいせい』7 (3)、1973 年
23. 「連合軍の占領政策批判」『めいせい時報』(26)、1973 年
24. 「入学式告辞」『明星大学父兄会 会報』(3)、1973 年
25. 「男子部通学生一思い出を語る会」『体験教育』(特集号)、1973 年
26. 「旧制明星中学校寄宿生」『体験教育』(特集号)、1973 年
27. 「明星幼稚園・明星小学校を語る」『体験教育』(特集号)、1973 年
28. 「学苑創立五十周年記念座談会—女子部十九年を顧みて」『体験教育』(特集号)、1973 年
29. 「大学設立の当時を顧みて」『体験教育』(特集号)、1973 年
30. 「創立五十周年記念式を迎えるに際して」『創立五十周年記念』1973 年
31. 「明星ものがたり」『創立五十周年記念』1973 年
32. 「明星ものがたり」『明星学苑 40 年』1973 年
33. 「資源枯渇と食糧危機」『めいせい時報』(27)、1973 年
34. 「学生佳話」『めいせい時報』(28)、1973 年
35. 「下降線をたどる日本人の評判」『めいせい時報』(29)、1973 年
36. 「草創期の明星教育」『めいせい時報』(30)、1973 年
37. 「学校家庭一体の人間教育」『めいせい』7 (6)、1973 年
38. 「他山の石」『めいせい時報』(31)、1973 年
39. 「孝は百行の本」『めいせい時報』(32)、1974 年
40. 「明星大学創立十周年を迎えて」『明星大学十年史』1974 年
41. 「大学設立の当時を顧みて」『明星大学父兄会 会報』(6)、1974 年
42. 「明星大学十周年記念祝賀会挨拶」『明星大学父兄会 会報』(9)、1974 年
43. 「自主外交とは何か」『めいせい時報』(33)、1974 年
44. 「日韓大陸ダナ協定について」『めいせい時報』(34)、1974 年
45. 「卒業式学長告辞」『めいせい時報』(35)、1974 年
46. 「入学式告辞」『めいせい時報』(36)、1974 年
47. 「只々『感謝』と申す外胸中をあらわす言葉もございません」『めいせい時報』(37)、1974 年
48. 「明星大学十周年の回顧と展望」『めいせい時報』(38)、1974 年
49. 「わが青春時代」『めいせい時報』(40)、1974 年
50. 「わが青春時代」『めいせい時報』(45)、1974 年
51. 「わが青春時代」『めいせい時報』(49)、1974 年
52. 「世界に信頼される日本人に」『めいせい時報』(59)、1974 年
53. 「家庭の教育」『めいせい時報』(66)、1974 年
54. 「わが青春時代 (二) 掛川中学校時代のことども」『めいせい』8 (10)、1975 年
55. 「わが青春時代 (三) 掛中時代体づくりの思い出」『めいせい』8 (11)、1975 年¹⁴
56. 「わが青春時代 (六) 四高時代の思い出」『めいせい』9 (2)、1975 年¹⁵
57. 「わが青春時代 (七) 四高時代様々の思い出」『めいせい』9 (3)、1975 年¹⁶

58. 「忘れ得ぬ人々」『めいせい』9 (7)、1975 年
59. 「入学式学長告辞」『明星大学父兄会 会報』(11)、1975 年
60. 「『官学と私学』に紹介された明星大学について」『めいせい』10 (8)、1976 年
61. 「児玉記念図書館の開館にあたって」『めいせい』10 (9)、1976 年
62. 「家庭教育に求めるもの」『明星大学父兄会 会報』(14)、1976 年
63. 「入学式学長告辞」『明星大学父兄会 会報』(15)、1976 年
64. 「入学式学長告辞」『明星大学父兄会 会報』(19)、1977 年
65. 「明星大学通信教育部開設十周年を迎えて」『めいせい』11 (1)、1977 年
66. 「昭和 51 年度卒業式告辞」『めいせい』11 (2)、1977 年
67. 「昭和 52 年度入学式告辞」『めいせい』11 (3)、1977 年
68. 「教育の意義」『めいせい』11 (4)、1977 年
69. 「私の教育観」『めいせい』11 (5)、1977 年
70. 「家庭の教育」『めいせい』11 (6)、1977 年
71. 「教育雑感」『めいせい』11 (7)、1977 年
72. 「わが健康道」『めいせい』11 (8)、1977 年
73. 「教師の在り方について」『めいせい』11 (9)、1977 年
74. 「通信教育部開設十周年を迎えるに際して」『開かれた大学へ—創設十周年記念誌』1977 年
75. 「長寿学について」『めいせい』11 (10)、1978 年
76. 「明星の教育」『めいせい』11 (11)、1978 年
77. 「真実の教育を求めて」『めいせい』11 (12)、1978 年
78. 「挨拶」『めいせい』12 (1)、1978 年
79. 「五正道をめざす」『めいせい』12 (2)、1978 年
80. 「講演要旨・真実の教育を求めて」『めいせい』12 (7)、1978 年
81. 「入学式学苑長祝辞」『明星大学父兄会 会報』(23)、1978 年
82. 「入学式学苑長祝辞」『明星大学父兄会 会報』(27)、1979 年
83. 「講演・真実の教育を求めて」『めいせい』13 (7)、1979 年
84. 「座談会 明星小学校の風雪 30 年」『正直なよい子—創立 30 周年記念誌』1980 年
85. 「明星小学校創立 30 周年を迎えて」『正直なよい子—創立 30 周年記念誌』1980 年
86. 「学苑長祝辞」『明星大学父兄会 会報』(31)、1980 年
87. 「学苑長祝辞」『明星大学父兄会 会報』(35)、1981 年
89. 「学苑長祝辞」『明星大学父兄会 会報』(39)、1982 年
88. 「創立六十周年を記念して」『創立六十周年記念誌』1983 年
89. 「明星小史 第一部」『創立六十周年記念誌』1983 年
91. 「創立六十周年を記念して」『明星大学父兄会 会報』(45)、1983 年
92. 「明星大学創立 20 周年のよろこび」『明星大学二十年史』1984 年
93. 「明星大学創立 20 周年のよろこび」『明星大学父兄会 会報』(49)、1984 年

おわりに

以上のように、本稿では1965（昭和40）年以降の児玉の著作目録を整理し、新たに『真実の教育を求めて』未収録作を含む93点の著作を挙げる事ができた。収集した文献は明星大学に関係するものが多く、明星教育に関する論考としては有効な著作目録になったと考えられる。一方で、大学以外の著作に関して十分に明らかにできなかった点が課題点である。

『めいせい』については、すべての号を確認できたわけではないが、欠号の中で連載されていたと考えられる表題がある。たとえば、1975（昭和50）年の「わが青春時代」（二）（三）（七）（八）は、欠号の中での連載が予測されるため、今後も資料の収集を続けて確認したい。

なお、『めいせい』も1970年代後半に入ると、過去とよく似たタイトルの記事が登場する。講演「真実の教育を求めて」（1978年、1979年）については各年度の講演を収録したものであり内容の違いが見られるが、それ以外で確認した範囲では過去の記事を加筆修正したものが散見される¹⁷。これらは再録ではなく修正されていることから、ここでは別の記事として取り扱うこととした。

さいごに、「児玉九十著作目録の再検討」と題して2号にわたり著作を整理する中で、「児玉九十評」とも言える論説を複数目にする機会があった¹⁸。これらは児玉の著作ではないものの、人物研究に関連するものであるため、その収集・整理については今後の課題としたい。児玉の著作については収集を続けていく予定であるが、思わぬ誤りや新たな情報についてはご指摘いただければ幸いである。

注

- 1 児玉九十『真実の教育を求めて』明星大学、1977年、まえがき（1枚目～2枚目、頁番号なし）
- 2 甲斐規雄「新入学生の皆さんへ」『めいせい』6（4）、1972年、48頁。
- 3 『めいせい』創刊号、1967年、24頁。
- 4 2014年12月現在、明星教育センターに所蔵されている『めいせい』の中で、児玉の記事が確認される1967年創刊号から1979年7月号までの巻号は以下の通りである。創刊号、3（2、8）、4（3、5-9、12）、5（2）、6（1、2、4、6、7）、7（3、6、9）、8（1、2、5、6、8、10、11）、9（2、3、7）、10（1-12）、11（1-12）、12（1-3、6-12）、13（1-7）
- 5 「傾聴すべき一用務員氏の意見」『めいせい』3（8）、1969年。原典の表題には「氏」の文字が記されている。
- 6 「長寿学に就て」『めいせい』4（3）、1970年。原典の表題は「就て」が漢字表記である。
- 7 「教師の在り方に就て」『めいせい』4（12）、1971年。原典の表題は「就て」が漢字表記である。
- 8 「赤軍派はどうして生れたか」『めいせい』6（1）、1972年。原典の表題と送り仮名が異なる。
- 9 「画龍点睛を欠いた日本列島」『めいせい』6（6）、1972年。原典の表題と漢字表記が異なる。
- 10 掲載号とされる『めいせい』7（6）、1973年に同名の記事はなく、かわりに「学校家庭一体の人間教育」と題する記事が掲載されている。表記ミスと思われるが、明星教育センター所蔵の周辺号が欠けており確認できなかったため、このまま記載する。
- 11 掲載号とされる『めいせい』7（9）、1973年に同名の記事はなく、表記ミスと思われるが、明星教育センター所蔵の周辺号が欠けており確認できなかったため、このまま記載する。
- 12 「講演要旨・両親教育一師範の精神を中心に」『めいせい』10（7）、1976年。原典の表記には副題が存在する。
- 13 文末には（要約）と記されている。
- 14 表紙の巻号表記は9（11）だが、奥付の巻号表記は8（11）である。内容を読むと1975年2月のものであり恐ら

く表紙が誤記と考えられるため、ここでは 8（11）と表記する。

- 15 表紙の巻号表記は 10（2）だが、奥付の巻号表記は 9（2）である。上記と同様に 9（2）と表記する。
- 16 表紙の巻号表記は 10（3）だが、奥付の巻号表記は 9（3）である。上記と同様に 9（3）と表記する。
- 17 たとえば、『長寿学について』（1970 年、1978 年）などは、前者の原稿の冒頭部分を削除し、接続詞などを書き換えた上でほぼそのまま掲載されている。
- 18 たとえば、「人物の片影（三五五）新寺子屋教育の児玉九十君」（『教育週報』（355）、1932 年）、小原国芳「明星中學校に於ける體驗教育・児玉九十」（小原国芳編『日本の労作学校』第 1 輯、玉川学園出版部、1933 年）、浜野重郎「旧友・児玉さんの人間像を語る」（『私学時報』（292）、1955 年）、山本徴「放送倫理情報 わが社の番審委員長 児玉九十（FM 東京）」（日本民間放送連盟、日本民間放送連盟 編『月刊民放』4（6）（36）、1974 年）、明星同窓会編集委員会編『児玉九十先生を仰ぐ』（明星大学出版部、1990 年）などが挙げられる。